



## 目標に近づくには～プラス思考で！

校長 川崎 正

1学期も半分以上が過ぎ、子どもたちは、学期はじめに立てたそれぞれの自分の目標に向かって頑張っています。子どもたち一人一人によさがあり、一人一人に応じた成長があります。1学期に自分なりの「よい結果」を残してくれるか楽しみです。

しかし、「よい結果」＝「成功・達成」では、決してありません。

京セラの創業者稲森和夫さんは、『京セラフィロソフィ』という書物の中で、結果には、「熱意（努力）」と「能力」と「考え方」の3つの要素が関係していると述べています。そして、結果を成功に導く可能性を数値化するために「結果を導く方程式」として、次のように述べています。

「人生・仕事の結果」＝「考え方」×「熱意」×「能力」～この方程式にある3つの要素はかけ算であり、この3つの要素は「熱意」0～100、「能力」0～100で表させるということです。具体的に、目標達成のために身に付けた「能力」とそれを生かそうとした「熱意」をAさん、Bさんで比べてみると下のようになります。

【Aさん】	目標を達成するために身に付けた能力「80」	
	能力を生かそうとした熱意(努力)「10」	$80 \times 10 = 800$
【Bさん】	目標を達成するために身に付けた能力「40」	
	能力を生かそうとした熱意(努力)「90」	$40 \times 90 = 3600$

方程式では、さらに「考え方」がかけられていきます。「考え方」は、物事を肯定的に考えたり、否定的に考えたりすることから-100～100で数値化されることとなります。【Bさん】で考えると、「どうせだめだろう」と否定的に思いながら取り組んだと仮定し、考え方を「-10」として計算式に入れると  $40 \times 90 \times (-10) = -36000$  となり、その意識は努力した分、なおさら、「あれだけ努力したのにやっぱりダメだったのか」という結果のみにこだわったものしか残らないということです。

学校では、子どもたちの目標に対して、やる気と取り組むための知識をもたせ、それに加え、「やればできる」というプラス思考をもたせてあげることが大切であると考えています。子どもにとって「よい結果」とは、決して成功や達成だけではなく、自分を肯定的に捉え「自分はできる」「やればできる」と考えて取り組んだ過程から、次への自信につながることや自分の出した結果に満足できることではないかと思えます。子どもたちが、頑張っている場面を見かけたら、家庭や地域でも前向きに取り組ませる言葉かけ「あなたはできるよ！」「やればできるよ！」「きっと目標に近づけるよ！」と声をかけてあげてください。プラス思考の言葉がけで、子どもたちはきっと、自分が満足できる「よい結果」を導いてくれるのではないかと思います。

(HP 随時更新中)

### 《やましげ土曜体験広場》～きれいに植えられたよ!!～



6月17日(土)の午前中に「やましげ土曜体験広場」で田植えをしました。今回も山重校区コミュニティ協議会青少年育成部の方々のご指導の下、参加した18人の子どもたちが、曲集会所隣の田に苗を一つ一つ丁寧に植えていきました。高学年のお兄さん・お姉さんの手助けもあり、低学年の子どもたちも上手に作業を進めることができました。よい体験ができ、みんな大満足の表情でした。